

第5分科会（小学校・今日的教育課題）記録

提言テーマ「自立と共生を図り実践的な態度を育む教育の推進並びに家庭・地域等との連携」
～全ての子どもに対する学びの保障と充実を目指して～

提言者〔有田町立有田小学校 松尾 寛〕

司会者〔鳥栖市立鳥栖北小学校 長尾 真司〕

記録者〔伊万里市立松浦小学校 山崎 秀隆〕

【研究協議題】

- ・子どもの学びを保障するために、保護者と地域、教師がどのように連携しているか。
- ・小学校における若手職員の資質向上。

1 質疑応答

なし

2 グループ協議報告

(1) Aグループより

- ・ 支援を要する児童については職員連絡会等で共通理解を図り、必要に応じてケース会議を開き、具体的な対応策を考え、実践している。
- ・ 会議は時間を制限して行い、放課後デイサービスなどの外部機関との連携を図っている。
- ・ OJT研修を行い、若手教員を指導助言者として資質・能力の向上を図っている。
- ・ 校内研究は個人でテーマを設定して個人研究に取り組ませている。

(2) Bグループより

- ・ 地域行事で子ども自身が考えて参加する場があり、地域に支えられながら育っている。
- ・ 保護者が少ない地域は、教員と地域、保護者が連携する時間をつくることが課題である。
- ・ 毎年新規採用者が2名ずつ配置される学校では、若手はその思いを聞き、周囲に協力を呼びかける役割を担っている。
- ・ 学習指導要領に基づき、指導のねらいを明確にさせて授業に取り組ませている。参観者は、授業の視点を共通理解したうえで助言を行っている。

(3) Cグループより

- ・ 特別支援教育コーディネーターを中心に課題を明らかにし、支援の方向性を見出している。
- ・ 職員、民生委員、地域の方々、専門家など様々な立場の方が支援に関わる情報を入力することで個別の支援計画の方向性を示すことができる支援ソフトを導入し、活用している。
- ・ 通常学級担任と特別支援学級担任のどちらも経験させ、自己有用感を高められるような適材適所の配置を考えている。

(4) Dグループより

- ・ 同地区内の学校での情報共有や支援体制を統一する取組はとても参考になった。ただし、各学校の現状や学校規模によりケースが異なり、それぞれに応じた対応策も必要である。
- ・ 児童個人のデータ共有や管理、分析による個別支援の対応は、若手教員にとってはとても有効であると感じた。